

生まれになった。この方こそ主メシアである」ということです。

今日お生まれになった救い主はキリストである、旧約聖書で約束されていた救い主である、この方の誕生によって神様の救いの約束が実現したのだということがまず語られ、このキリストは主である、まことの神として私たちが信じ、礼拝すべきお方なのだということが語られているのです。この、キリストであり主であるあなたがたのための救い主の誕生が、大きな喜びとして告げられたのです。

しかしそれだけでは羊飼いたちにとつて本当に大きな喜びにはなりません。「ああそうですか」という他人事にしかならないのです。これが「大きな喜び」となるための鍵は、「あなたがたのために」という言葉にあります。天使は、これは「あなたがたのため」の救いの出来事だと告げたのです。世界のためとか、特別な困難の中にいる誰かのためではなくて、あなたのために、神様は救い主を遣わされた、神様が今、「あなた」と語りかけ、「私とあなた」という関係を結び、救いの恵みを与えようとしておられる、それが天使の告げた「大きな喜び」なのです。

それは、この日誕生した救い主が、「あなたがたのため」の救い主であること、神様が「あなたがた」を選んで、「大きな喜び」を告げておられるということです。与えられる「しるし」は、他の赤ん坊と区別して見分けるために与えられているのではなくて、神様の救いの恵みがこの自分に与えられていることを彼らが確信するために与えられているのです。だから羊飼いたちは、天使が去つていくとすぐに「さあ、ベツレヘムへ行こう。主が知らせてくださいましたその出来事を見ようではないか」と語り合い、ベツレヘムへと急いで行ったのです。そして、飼葉桶に寝かせ

てある乳飲み子を探し当てました。「布にくるまって飼葉桶の中に寝ている乳飲み子を見つくる」というしるしがこうして現実となったのです。

そして彼らは、これが自分たちの大きな喜びであることを確認して帰りました。「神があがめ、賛美しながら帰って行った」というのは、彼らがこの「大きな喜び」を確かに受け止めたことを表しています。「見聞きしたことがすべて天使の話したとおりだったので」というのは、彼らが天使から聞いたしるしを実際に見たことによつて、自分たちのための救い主の誕生という大きな喜びを確認したということなのです。天使の告げた大きな喜びは、本当に彼らの喜びとなったのです。

私たちはある日突然、あるいは時間をかけて、様々な仕方で神様からの語りかけを受けます。そのことによつて私たちは恐れ、戸惑い、放つておいてくれればいいのにも思います。しかし神様は私たちに、「民全体に与えられる大きな喜び」福音をお告げになるのです。私たちはそれをすぐに喜びと感ずるわけではありません。しかし「主が知らせてくださいましたその出来事を見ようではないか」という思いによつてベツレヘムへと出かけていく中で、「布にくるまって飼葉桶の中に寝ている乳飲み子を見つくる」ということが起るのです。そのことが起るのが、礼拝です。そこで私たちは、「今日ダビデの町で、あなたがたのための救い主がお生まれになった」という救いの宣言を聞き、その救い主イエスキリストがこの自分のための救い主であられることとしるしを見るのです。毎週の主の日の礼拝で私たちは、このしるしを見るのです。そして、「神があがめ、賛美しながら」それぞれの生活へ帰って行くのです。

(一二月二四日クリスマスイヴ礼拝)

二〇二二年一月講壇一覽

第一主日(一月五日) 待降節第二 公同礼拝

「片隅のクリスマス」 高橋和人牧師

イザヤ 三五・一〇一〇

ルカ 一・二六〇三六

第二主日(一月二日) 待降節第三 公同礼拝

「マリアの信仰」 姜俔米牧師

イザヤ 九・一〇六

ルカ 一・四六〇五六

第三主日(一月九日) クリスマス公同礼拝

「揺るぎなき飼葉桶」 高橋和人牧師

イザヤ 一一・六〇一〇

ルカ 二・一〇七

クリスマスイヴ礼拝(一月二四日)

「大きな喜び」 姜俔米牧師

イザヤ 九・一〇六

マタイ 一・一八〇二五

ルカ 二・八〇二二

第四主日(二月二六日) 公同礼拝

「求めよ」 高橋和人牧師

イザヤ 五五・六〇七

マタイ 七・七〇一

二〇二二年一月講壇一覽

第一主日(一月二日) 公同礼拝(新年礼拝)

「新生」 高橋和人牧師

イザヤ 六五・一七〇二五

黙示録 二一・一〇五

第二主日(一月九日) 公同礼拝

「イエスは主である」 姜俔米牧師

詩編 一〇〇・一〇三

コリントI 一・一〇三